

土木請負工事監督・検査諸規程

平成 2 3 年 4 月

平成 1 4 年	4 月	1 日	制定
平成 1 4 年	1 0 月	2 1 日	改正
平成 1 6 年	3 月	1 日	改正
平成 2 2 年	3 月	1 日	改正
平成 2 3 年	4 月	1 日	改正

京 都 市 建 設 局

土木請負工事監督・検査諸規定

- 1 土木請負工事監督・検査要綱
- 2 工事関係書類

1 土木請負工事監督・検査要綱

土木請負工事監督・検査要綱の目次

土木請負工事監督・検査要綱（21条で構成）	1
現場中間検査を要する工種別要領（別表1）	10
工場等派遣中間検査を要する工種別要領（別表2）	10
検査及び成績採点の要領	11
工事成績評定点等通知実施要領	12
検査職員通知書（別紙）	13
工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表 （大幅に改正）	別紙1～別紙5

		【担当監督員】			【主任監督員】	
考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
1 施工体制	I 施工体制一般	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
		●評価対象項目 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、施工体制一般について指示事項がない。 ☐ 施工計画書を、工事着手前に提出している。 ☐ 作業分担の範囲を、施工体制台帳及び施工体系図に明確に記載している。 ☐ 品質証明員が関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般にわたって実施して、品質証明に係る体制が有効に機能している。 ☐ 元請が下請の作業成果を検査している。 ☐ 施工計画書の内容と現場施工方法が一致している。 ☐ 緊急指示、災害、事故等が発生した場合の対応が速やかである。 ☐ 現場に対する本店や支店による支援体制を整えている。 ☐ 工場製作期間における技術者を適切に配置している。 ☐ 機械設備、電気設備等について、製作工場における社内検査体制（規格値の設定や確認方法等）を整えている。 ☐ その他〔理由：_____〕 ●判断基準 評価値が90%以上 a 評価値が80%以上90%未満.....b 評価値が80%未満 c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			☐ 施工体制一般に関して、監督職員が文書による改善指示を行った。	☐ 施工体制一般に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	細 別		b	c	d	e
1 施工体制	I 施工体制一般		施工体制が適切	他に該当しない	施工体制がやや不備	施工体制が不備
		〔評価対象項目〕 ☐ 作業分担の範囲が施工体制台帳, 施工体制図で確認できる。 ☐ 工事カルテの登録は, 監督職員の確認を受けた上で契約後10日以内に行われている。 ☐ 品質証明では品質証明の時期・確認項目が, 工事全般にわたり, よく把握されている。 ☐ 建設業退職金共済制度の主旨を作業員等に説明するとともに, 証紙の購入が適切に行われ, 配付が受払簿等により適切に把握されている。 ☐ 請負代金内訳書が契約後速やかに提出されている。 ☐ 施工体制台帳, 施工体系図が整備され, 施工体系図も現場に掲げられ, 現場と一致している。 ☐ 工事規模に応じた人員, 機械配置の施工となっている。 ☐ 「施工プロセス」チェックで, 指摘事項がなかった。又は指摘事項に対する改善が速やかに実施された。 ☒ 施工体制が不備であり, 監督職員から文書により改善指示を行った。 ☐ その他(理由) 該当項目が80%程度以上…………b 該当項目が60～80%程度…………c 該当項目が60%程度以下…………d ■の該当項目があれば…………e ① 当該「評価対象項目」のうち, 評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は, 削除後の評価項目数を母数として, 比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)=()評価数÷()対象評価項目数 ④ なお, 削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
1 施工体制	II 配置技術者 (現場代理人等)	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
		●評価対象項目 【全体を評価する項目】 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、配置技術者について指示事項がない。 ☐ 作業に必要な作業主任者及び専門技術者を選任及び配置している。 【現場代理人を評価する項目】 ☐ 現場代理人が、工事全体を把握している。 ☐ 設計図書と現場との相違があった場合は、監督職員と協議するなどの必要な対応を行っている。 ☐ 監督職員への報告を適時及び的確に行っている。 【監理(主任)技術者を評価する項目】 ☐ 書類を共通仕様書及び諸基準に基づき適切に作成し、整理している。 ☐ 契約書、設計図書、適用すべき諸基準等を理解し、施工に反映している。 ☐ 施工上の課題となる条件(作業環境、気象、地質等)への対応を図っている。 ☐ 下請の施工体制及び施工状況を把握し、技術的な指導を行っている。 ☐ 監理(主任)技術者が、明確な根拠に基づいて技術的な判断を行っている。 ☐ その他[理由:_____] ●判断基準 評価値が90%以上 a 評価値が80%以上90%未満.....b 評価値が80%未満 c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			☐ 配置技術者に関して、監督職員が文書による改善指示を行った。	☐ 配置技術者に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
2 施工状況	I 施工管理	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
		●評価対象項目 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、施工管理について指示事項がない。 ☐ 施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映したとなっている。 ☐ 現場条件の変化に対して、適切に対応している。 ☐ 工事材料の品質に影響がないよう保管している。 ☐ 日常の出来形管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。 ☐ 日常の品質管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。 ☐ 現場内の整理整頓を日常的に行っている。 ☐ 指定材料の品質証明書及び写真等を整理している。 ☐ 工事打合せ簿を、不足なく整理している。 ☐ 建設副産物の再利用等への取り組みを適切に行っている。 ☐ 工事全般において、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型の建設機械及び車両を使用している。 ☐ その他[理由:_____] ●判断基準 評価値が≧90%以上 a 評価値が≧80%以上90%未満.....b 評価値が≧80%未満 c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			☐ 施工管理に関して、監督職員が文書による改善指示を行った。	☐ 施工管理に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
2 施工状況	II 工程管理	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
		●評価対象項目 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、工程管理について指示事項がない。 ☐ 工程に与える要因を的確に把握し、それらを反映した工程表を作成している。 ☐ 実施工程表の作成及びフォローアップを行っており、適切に工程を管理している。 ☐ 現場条件の変化への対応が迅速であり、施工の停滞が見られない。 ☐ 時間制限や片側交互通行等の各種制約への対応が適切であり、大きな工程の遅れがない。 ☐ 工事の進捗を早めるための取り組みを行っている。 ☐ 適切な工程管理を行い、工程の遅れがない。 ☐ 休日の確保を行っている。 ☐ 計画工程以外の時間外作業がほとんどない。 ☐ その他 [理由: _____] ●判断基準 評価値が≧90%以上 a 評価値が≧80%以上90%未満.....b 評価値が≧80%未満 c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			☐ 工程管理に関して、監督職員が文書による改善指示を行った。	☐ 工程管理に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
2 施工状況	Ⅲ 安全対策	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
		●評価対象項目 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、安全対策について指示事項がない。 ☐ 災害防止協議会等を1回／月以上行っている。 ☐ 安全教育及び安全訓練等を半日／月以上実施している。 ☐ 新規入場者教育の内容に、当該工事の現場特性を反映している。 ☐ 工事期間を通じて、労働災害及び公衆災害が発生しなかった。 ☐ 過積載防止に取り組んでいる。 ☐ 仮設工の点検及び管理を、チェックリスト等を用いて実施している。 ☐ 保安施設の設置及び管理を、各種基準及び関係者間の協議に基づき実施している。 ☐ 地下埋設物及び架空線等に関する事故防止対策に取り組んでいる。 ☐ その他[理由:_____] ●判断基準 評価値が≥90%以上 a 評価値が≥80%以上90%未満.....b 評価値が≥80%未満 c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			☐ 安全対策に関して、監督職員が文書による改善指示を行った。	☐ 安全対策に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
2 施工状況	IV 対外関係	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
		●評価対象項目 ☐ 「施工プロセス」のチェックリストのうち、対外関係について指示事項がない。 ☐ 関係官公庁などと調整を行い、トラブルの発生がない。 ☐ 地元との調整を行い、トラブルの発生がない。 ☐ 第三者からの苦情がない。もしくは、苦情に対して適切な対応を行っている。 ☐ 関連工事との調整を行い、円滑な進捗に取り組んでいる。 ☐ 工事の目的及び内容を、工事看板などにより地域住民や通行者等に分かりやすく周知している。 ☐ その他「理由：_____」 ●判断基準 評価値が90%以上 a 評価値が80%以上90%未満.....b 評価値が80%未満 c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。			☐ 対外関係に関して、監督職員が文書による改善指示を行った。	☐ 対外関係に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
3 出来形及び出来ばえ	全 般	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内である。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内である。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a、bに該当しない。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第17条に基づき、監督職員が改造請求を行った。
I 出来形		※ ばらつきの判断は別紙ー4参照 ① 出来形の評定は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系であるが、当該管理基準によりがたい場合等については、監督職員と協議の上で出来形管理を行うものである。 ④ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。				

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	工 種	a	b	c	d	e
3 出来形及び出来ばえ	機械設備工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第17条に基づき、監督職員が改造請求を行った。
I 出来形	※上記欄によらず、当該欄で評価	●評価対象項目 ☐ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫している。。 ☐ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内である。 ☐ 施工管理基準の撮影記録が撮影基準を満足している。 ☐ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督職員と協議の上で管理している。 ☐ 不可視部分の出来形を写真撮影している。 ☐ 塗装管理基準の塗膜厚管理を適切にまとめている。 ☐ 溶接管理基準の出来形管理を適切にまとめている。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理している。 ☐ 設計図書に定められている予備品に不足がない。 ☐ 分解整備における既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の劣化状況及び回復状況を図表等に記録している。 ☐ その他〔理由:_____〕 ●判断基準 評価値が90%以上 a 評価値が80%以上90%未満.....b 評価値が80%未満 c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	工 種	a	b	c	d	e
3 出来形及び 出 来 ば え	電気設備工事・ 通信設備工事・ 受変電設備工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	☐ 出来形の測定方法又は測定値 が不適切であったため、監督職 員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第17条に基づき、監督 職員が改造請求を行った。
I 出 来 形	※上記欄に よらず、当該欄 で評価	●評価対象項目 ☐ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫している。 ☐ 機器等の測定（試験）結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理している。 ☐ 不可視部分の出来形を写真撮影している。 ☐ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督職員と協議の上で管理している。 ☐ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内である。 ☐ 設備の据付及び固定方法が設計図書又は承諾図書通り施工している。 ☐ 配管及び配線が、設計図書又は承諾図書通りに敷設している。 ☐ 測定機器のキャリブレーションを、定期的の実施している。 ☐ 行先などを表示した名札がケーブルなどに分かり易く堅固に取り付けている。 ☐ 配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理している。 ☐ その他〔理由：_____〕 ●判断基準 評価値が90％以上 a 評価値が80％以上90％未満.....b 評価値が80％未満 c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率（％）の値で評価する。 ③ 評価値（ ％）＝該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ） ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
3 出来形及び出来ばえ	全 般	☐ 品質の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内である。	☐ 品質の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内である。	☐ 品質の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a, bに該当しない。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第17条に基づき、監督職員が改造請求を行った。
II 品質		※ ばらつきの判断は別紙ー4参照 ① 品質の評定は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 品質とは、設計図書に示された工事目的物の規格である。 ③ 品質管理とは、「土木工事施工管理基準」の試験項目、試験基準及び規格値に基づく全ての段階における品質確保のための管理体系である。なお、当該管理基準によりがたい場合等については、監督職員と協議の上で品質管理を行うものである。 ④ 品質管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。				

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	工 種	a	b	c	d	e
3 出来形及び出来ばえ	機械設備工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第17条に基づき、監督職員が改造請求を行った。
II 品質	※上記欄によらず、当該欄で評価	●評価対象項目 ☐ 材料、部品の品質照合の書類(現物照合)の内容が設計図書の仕様を満足している。。 ☐ 設備の機能及び性能を、承諾図書のとおり確保している。 ☐ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出している。 ☐ 機器の品質、機能及び性能が設計図書を満足して、成績書にまとめられている。 ☐ 溶接管理基準の品質管理項目について規格値を満足している。 ☐ 塗装管理基準の品質管理項目について規格値を満足している。 ☐ 操作制御設備について、操作スイッチや表示灯を承諾図書のとおり配置し、操作性にすぐれている。 ☐ 操作制御設備の安全装置及び保護装置が承諾図書のとおり機能している。 ☐ 小配管、電気配線・配管が、承諾図書のとおり敷設している。 ☐ 設備の取扱説明書を工夫している。 ☐ 完成図書(取扱説明書)に定期的な点検及び交換を必要とする部品並びに箇所を明示している。 ☐ 機器の配置が点検しやすいよう工夫している。 ☐ 設備の構造や機器の配置が、部品等の交換作業を容易にできるよう工夫している。 ☐ 二次コンクリートの配合試験及び試験練りが実施され、試験成績表にまとめられている。 ☐ バルブ類の平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示している。 ☐ 計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示している。 ☐ 回転部や高温部等の危険箇所に表示又は防護をしている。 ☐ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。 ☐ 現地状況を勘案し施工方法等について提案を行うなど、積極的に取り組んでいる。 ☐ その他「理由：_____」 ●判断基準 評価値が90%以上 a 評価値が80%以上90%未満.....b 評価値が80%未満 c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)の値で評価する。 ③ 評価値(%)=該当項目数()/評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	工 種	a	b	c	d	e
3 出来形及び 出 来 ば え	電気設備工事・ 通信設備工事・ 受変電設備工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	☐ 品質関係の測定方法又は測定 値が不適切であったため、監督 職員が文書で改善指示を行っ た。	☐ 契約書第17条に基づき、監督 職員が改造請求を行った。
Ⅱ 品質	※上記欄に よらず、当該欄 で評価	●評価対象項目 ☐ 製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討を実施している。。 ☐ 材料、部品の品質照合の結果が、品質保証書等(現物照合を含む)で確認でき、設計図書の仕様を満足している。 ☐ 機器の品質、機能及び性能が、設計図書を満足し、成績書にまとめている。 ☐ 操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れている。 ☐ ケーブル及び配管の接続などの作業が施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合がない。 ☐ 設備の機能及び性能が設計図書の仕様を満足している。 ☐ 操作制御関係の機能及び性能が、仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動が確認できる。 ☐ 設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足している。 ☐ 現場条件によって機器(製品)の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認している。 ☐ 設備全体についての取扱説明書を工夫し作成(修繕(改造・更新含む)の場合は、修正又は更新)している。 ☐ 完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示している。 ☐ 設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫している。 ☐ その他「理由:_____」 ●判断基準 評価値が90%以上 a 評価値が80%以上90%未満.....b 評価値が80%未満 c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は、削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝該当項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。				

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【担当監督員】 【主任監督員】

考 査 項 目	工 種	a	b	c	d	e
3 出来形及び出来ばえ	維持・修繕工事	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で改善指示を行った。	☐ 契約書第17条に基づき、監督職員が改造請求を行った。
II 品質	※上記欄によらず、当該欄で評価	●評価対象項目 ☐ 常に緊急的な作業に対応できる体制を整えている。。 ☐ 緊急的な作業に対し、迅速に対応している。 ☐ 監督職員の指示事項に対し、現地状況を勘案し、施工方法や構造について提案を行うなど、積極的に取り組んでいる。 ☐ 施工後のメンテナンスに対する提言や修繕サイクル等を勘案した提案等を行っている。 ☐ 理由：_____ ☐ 理由：_____ ☐ 理由：_____ ☐ 理由：_____ ●判断基準 ※該当項目が6項目以上 a ※該当項目が4項目以上 b ※該当項目が3項目以下 c 注 記載の4項目を必須の評価対象項目とし、この他に適宜項目を追加して評価するものとする ただし、評価対象項目は最大8項目とする。				

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【主任監督員】

考 査 項 目	細 別	工 夫 事 項
5 創意工夫	I 創意工夫	【施工】 ☐ 施工に伴う器具, 工具, 装置等に関する工夫又は設備据付後の試運転調整に関する工夫 ☐ コンクリート二次製品などの代替材の利用に関する工夫 ☐ 土工, 地盤改良, 橋梁架設, 舗装, コンクリート打設等の施工に関する工夫 ☐ 部材並びに機材等の運搬及び吊り方式などの施工方法に関する工夫 ☐ 設備工事における加工や組立等又は電気工事における配線や配管等に関する工夫 ☐ 給排水工事や衛生設備工事等における配管又はポンプ類の凍結防止, 配管のつなぎ等に関する工夫 ☐ 照明などの視界の確保に関する工夫 ☐ 仮排水, 仮道路, 迂回路等の計画的な施工に関する工夫 ☐ 運搬車輛, 施工機械等に関する工夫 ☐ 支保工, 型枠工, 足場工, 仮栈橋, 覆工板, 山留め等の仮設工に関する工夫 ☐ 盛土の締固度, 杭の施工高さ等の管理に関する工夫 ☐ 施工計画書の作成, 写真の管理等に関する工夫 ☐ 出来形又は品質の計測, 集計, 管理図等に関する工夫 ☐ 施工管理ソフト, 土量管理システム等の活用に関する工夫 ☐ ICT(情報通信技術)を活用した情報化施工を取り入れた工事 ☐ ※本項目は2点の加点とする。 ☐ 特殊な工法や材料を用いた工事 ☐ 優れた技術力又は能力として評価する技術を用いた工事

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【主任監督員】

考 査 項 目	細 別	工 夫 事 項																	
5 創意工夫	I 創意工夫	【品質】 ☐ 土工, 設備, 電気の品質向上に関する工夫 ☐ コンクリートの材料, 打設, 養生に関する工夫 ☐ 鉄筋, PCケーブル, コンクリート二次製品等の使用材料に関する工夫 ☐ 配筋, 溶接作業等に関する工夫 【安全衛生】 ☐ 建設業労働災害防止協会が定める指針に基づく安全衛生教育を実施している ※本項目は2点の加点とする。 ☐ 安全を確保するための仮設備等に関する工夫(落下物, 墜落・転落, 挟まれ, 看板, 立入禁止柵, 手摺り, 足場等) ☐ 安全教育, 技術向上講習会, 安全パトロール等に関する工夫 ☐ 現場事務所, 労務者宿舍等の空間及び設備等に関する工夫 ☐ 有毒ガス並びに可燃ガスの処理及び粉塵防止並びに作業中の換気等に関する工夫 ☐ 一般車輛突入時の被害軽減方策又は一般交通の安全確保に関する工夫 ☐ 厳しい作業環境の改善に関する工夫 ☐ 環境保全に関する工夫 【電子納品】 ☐ 任意試行中の工事で電子納品が自主的になされた。 <table><tr><td></td><td>区 分</td><td>電子納品なし</td><td>写真のみ</td><td>写真＋書類</td><td>写真＋書類＋図面</td></tr><tr><td rowspan="2">評点</td><td>エラーなし</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td>エラーあり ※4</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>3</td></tr></table> 【その他】 ☐ その他〔理由: _____〕 ☐ その他〔理由: _____〕 ☐ その他〔理由: _____〕 ☐ その他〔理由: _____〕 ☐ その他〔理由: _____〕 ☐ その他〔理由: _____〕 記述評価 (レマークを付した評価内容を詳細記述) ※2 合計点: _____ 点 ※5 合計点×2＝ 評定点: _____ 点 【創意工夫の詳細評価】工夫の内容及び具体的内容を記載		区 分	電子納品なし	写真のみ	写真＋書類	写真＋書類＋図面	評点	エラーなし	0	1	2	4	エラーあり ※4	—	—	—	3
		区 分	電子納品なし	写真のみ	写真＋書類	写真＋書類＋図面													
評点	エラーなし	0	1	2	4														
	エラーあり ※4	—	—	—	3														

※1 特に評価すべき創意工夫事例を加点評価する。

※2 評価は各項目において1つレ点が付されれば1, 2, 3, 4点で評価し, 合計点は最大7点の評価とする。

※3 上記の審査項目の他に評価に値する企業の工夫があれば, その他に具体的内容を記載して加点する。

※4 「エラーあり」とは, 発注者が, CAD製図基準(案)に準じた図面を受注者に提供できなかった場合に限る。この際, 「エラーあり」の図面の提出を認めるものとする。(写真及び書類のエラー状態のままの提出は, 原則認めない。)

※5 合計点に重み2倍をかけ評定点とする。(評定点は14点満点とする。)

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【総括監督員】

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
2 施工状況	II 工程管理	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている
	●評価対象項目 ☐ 隣接する他の工事などとの工程調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。 ☐ 地元及び関係機関との調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。 ☐ 工程管理を適切に行ったことにより、休日や夜間工事の回避等を行い、地域住民に公共工事に対する好印象を与えた。 ☐ 工程管理に係る積極的な取り組みが見られた。 ☐ 災害復旧工事など特に工期的な制約がある場合において、余裕をもって工事を完成させた。 ☐ 工事施工箇所が広範囲に点在している場合において、工程管理を的確に行い、余裕をもって工事を完成させた。 ☐ その他〔理由：_____〕 ●判断基準 ※ 上記該当項目を総合的に判断して、 a, b, c, d, eの評価を行う。					
	III 安全対策	a	b	c	d	e
	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	やや劣っている	劣っている	
		●評価対象項目 ☐ 建設労働災害及び公衆災害の防止に向けた取り組みが顕著であった。 ☐ 安全衛生を確保するための管理体制を整備し、組織的に取り組んだ。 ☐ 安全衛生を確保するため、他の模範となるような活動に積極的に取り組んだ。 ☐ 安全対策に関する技術開発や創意工夫に取り組んだ。 ☐ 安全協議会での活動に積極的に取り組んだ。 ☐ 安全対策に係る取り組みが地域から評価された。 ☐ その他〔理由：_____〕 ●判断基準 ※ 上記該当項目を総合的に判断して、 a, b, c, d, eの評価を行う。				

工 事 成 績 採 点 の 考 査 項 目 の 考 査 項 目 別 運 用 表

【総括監督員】

考 査 項 目	細 目	対 応 事 項	【 事 例 】 具 体 的 な 施 工 条 件 等 へ の 対 応 事 例
4 工事特性	I 施工条件等への対応	I 構造物の特殊性への対応 ☐ 1 対象構造物の高さ, 延長, 施工(断)面積, 施工深度等の規模が特殊な工事 ☐ 2 対象構造物の形状が複雑であることなどから, 施工条件が特に変化する工事 ☐ 3 その他〔理由: 〕 ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば 4点の加点 とする。	(1 について) 切土の土工量:20万㎡以上, 盛土の土工量:15万㎡以上, 護岸・築堤の平均高さ:10m以上, トンネル(シールド)の直径:8m以上, ダム用水門の設計水深:25m以上, 樋門又は樋管の内空断面積:15㎡以上, 揚排水機場の吐出管径:2,000mm以上, 堰又は水門の最大径間長:25m以上, 堰又は水門の径間数:3径間以上, 堰又は水門の扉体面積:50㎡/門以上, トンネル(開削工法)の開削深さ:20m以上, トンネル(NATM)の内空平均面積:100㎡以上, トンネル(沈埋工法)の内空平均面積:300㎡以上, 堤防, 護岸, 突堤又は離岸堤の水深:10m以上, 地滑り防止工:幅100m以上かつ法長150m以上, 浚渫工の浚渫土量:100万㎡以上, 流路工の計画高水流量:500㎡以上, 砂防ダムの堤高:15m以上, ダムの堤高:150m以上, 転流トンネルの流下能力:400㎡/s以上, 橋梁下部工の高さ:30m以上, 橋梁上部工の最大支間長:100m以上 (2 について) ・砂防工事などにおいて, 現地合わせに基づいて再設計が必要な工事 ・鉄道に隣接した橋脚の耐震補強工事又は河道内の流水部における橋脚の撤去工事 ・供用中の道路トンネルの拡幅工事 (3 について) ・その他, 構造物固有の難しさへの対応が特に必要な工事 ・その他, 技術固有の難しさへの対応が必要である工事 ・地山強度が低い又は土被りが薄いため, FEM解析などによる検討が必要な工事
		II 都市部等の作業環境, 社会条件等への対応 ☐ 4 地盤の変形, 近接構造物, 地中埋設物への影響に配慮する工事 ☐ 5 周辺環境条件により, 作業条件, 工程等に大きな影響を受ける工事 ☐ 6 周辺住民等に対する騒音・振動を特に配慮する工事 ☐ 7 現道上での交通規制に大きく影響する工事 ☐ 8 緊急時に対応が特に必要な工事 ☐ 9 施工箇所が広範囲にわたる工事 ☐ 10 その他〔理由: 〕 ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば 6点の加点 とする。	(4 について) ・供用中の鉄道又は道路と交差する橋梁などの工事 ・市街地等の家屋密集地での, 鉄道又は道路をアンダーパスする工事 ・監視などの結果に基づき, 工法の変更を行った工事 (5 について) ・ガス管, 水道管, 電話線等の支障物件の移設について, 施工工程の管理に特に注意を要した工事 ・地元調整や環境対策などの制約が特に多い工事 ・そのほかの各種制約があり, 施工に特に厳しい制限を受けた工事 (6 について) ・ 周辺住民等に特に配慮する必要がある , 市街地での夜間工事 ・ 周辺住民等に特に配慮する必要がある , DID地区での工事 (7 について) ・日交通量が概ね1万台以上の道路で片側交互通行の交通規制をした工事 ・供用している自動車専用道路等の路上工事で, 交通規制が必要な工事 ・工事期間中の大半にわたって, 交通解放を行うため規制標識の設置撤去を日々行った工事 (8 について) ・緊急時の作業があり, その作業の全てに対応した工事 (9 について) ・作業現場が広範囲に分布している工事 (10 について) ・施工ヤードの広さや高さに制限があり, 機械の使用など施工に制約を受けた工事 ・その他, 周辺環境又は社会条件への対応が特に必要な工事

工 事 成 績 採 点 の 考 査 項 目 の 考 査 項 目 別 運 用 表

【総括監督員】

考 査 項 目	細 目	対 応 事 項	【 事 例 】 具 体 的 な 施 工 条 件 等 へ の 対 応 事 例
4 工事特性	I 施工条件等への対応	Ⅲ 厳しい自然・地盤条件への対応 ☐ 11 特殊な地盤条件への対応が必要な工事 ☐ 12 雨・雪・風・気温等の自然条件の影響が大きな工事 ☐ 13 急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事 ☐ 14 動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事 ☐ 15 その他〔理由: _____〕 ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば4点の加点とする。	(11 について) ・河川内の橋脚工事において地下水位が高く、ウェルポイント工法などによる排水や大規模な山留めなどが必要な工事 ・支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎毎に地質調査を実施するなど支持地盤を確認しながら再設計した工事 ・施工不可能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを的確に把握する必要があるが生じた工事 (12 について) ・河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事 ・潜水夫を多用した工事又は波浪や水位変動が大きいため作業構台等を設置した工事 (13 について) ・急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事。もしくは、命綱を使用する必要があった工事(法面工は除く) ・斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策を必要とした工事 ・土石流危険渓流に指定された区域内における工事 (14 について) ・イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事 (15 について) ・その他、自然条件又は地盤条件への対応が必要であった工事 ・その他、災害等における臨機の措置のうち特に評価すべき事項が認められる工事
	評価	IV 長期工事における安全確保への対応 ☐ 16 12ヶ月を超える工期で、事故がなく完成した工事(全面一時中止期間は除く) ※但し、文書注意に至らない事故は除く。 ☐ 17 その他〔理由: _____〕 ※上記の対応事項に1つ以上レ点が付けば6点の加点とする。 評点: _____ 点	

※ 工事特性は、最大20点の加点評価とする。

※ 評価にあたっては、担当監督員・主任監督員の意見も参考に評価する。

工 事 成 績 採 点 の 考 査 項 目 の 考 査 項 目 別 運 用 表

【主任監督員】

考 査 項 目	細 目	技 術 力 キ ー ワ ー ド 一 覧 表	〔 事 例 〕 具 体 的 な 評 価 技 術 力 項 目 及 び 工 事 事 例
4 高度技術	Ⅰ 高度技術 キーワード評価	●構造物固有の難しさへの対応 ☐ 対象構造物の形状の複雑さ(土被り厚さやトンネル線形等を含む) ☐ 既設構造物の補強、撤去等特殊な工事 ☐ その他(理由:)	[事例 : 構造物固有な施工難度と対応工法等] ・ 地山強度が低い。また土被りが少ないため、FEM解析等の施工のための検討が必要な工事。 ・ 砂防工事等で現地調査に基づき、現地合わせの再設計と施工が必要な工事。 ・ 鉄道営業線に隣接した橋脚の耐震補強工事や河道内の流水部における橋脚撤去工事。 ・ 供用中の道路トンネルの活線拡幅工事等。 ・ 施工場所や構造物の特殊性に対処するための新技術、新工法を採用した工事。 ・ パイロット工事、又は特異な試験フィールド工事で特許工法等の技術的に検討が必要な工事。 ・ その他、コンピューターシミュレーション等が必要な設計や特殊な工法及び材料等を用いた工事等。 ・ VE提案された工法等が高度技術として評価できる場合。 ・ 構造物固有の難しさ、技術固有の難しさへの対応が必要であり、特に評価すべき技術があると評価された工事。 ・ その他構造物固有の難しさ、技術固有の難しさへの対応が必要であり、特に評価すべき技術があると評価された工事。
		●技術固有の難しさへの対応 ☐ 工種及び工法の特殊性 ☐ 新工法(機器類を含む)及び新材料の適用 ☐ その他(理由:)	
		●厳しい自然・地盤条件への対応 ☐ 湧水の発生・地下水の影響(地盤掘削時) ☐ 軟弱地盤、支持地盤の状況 ☐ 河川内・急峻な地盤条件下等及び工事用道路・作業スペース等の制約 ☐ 雨・雪・風・気温等の影響 ☐ 地滑り等の地質条件、急流河川での水流の影響、動植物等に対する配慮等 ☐ その他(理由:)	[事例 : 自然及び地盤条件への対応工事等] ・ 河川内の橋脚工事等で、地下水位が高く、ウエルポイント等の排水設備のほか、大規模な山留め工法が必要な工事。 ・ 支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎の1本毎に地質調査を実施するほか、支持地盤を確認しながら再設計した工事。 ・ 軟弱地盤上の緩速盛土のため、施工不可能日(待ち時間)が多く、施工機械の稼働率と施工台数等を的確に把握した工事。 ・ 急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事。又は命綱を使用する必要があった工事。(法面工は除く) ・ 斜面上若しくは急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策施工後に、施工した工事。 ・ 河川内のため、設計図書で計上する以上に気象等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事。 ・ 水位変動が大きいため、作業構台等を設置した工事。また、作業構台等の設置や作業工程から潜水夫を多用した工事。 ・ 冬期施工のため、大規模な雪寒冬囲いをする必要があり、冬期の養生温度の管理や施工スペースの制限を受けた工事。 ・ その他、自然条件又は地盤条件への対応が必要であり、特に評価すべき技術があると評価された工事。

※ 高度な技術力とは、工事全体を通して他の類似工事に比べて、特異な技術を要する工事を施工する技術力を評価するものである。なお、評価は「5、創意工夫」との二重評価はしない。
※ 詳細評価の記述に当たっては、課内協議とし、各考查項目はキーワードで大分類し、評価する詳細な高度な技術力を記述する。
※ 高度技術は「実用新案・特許クラス」から「現場に適用した本当に些細な工夫ではあるが、非常に役立つ軽微な工夫」まで、様々なレベルがあるが、本項目では「5、創意工夫」で評価はしなかったものを対象とする。

工 事 成 績 採 点 の 考 査 項 目 の 考 査 項 目 別 運 用 表

考 査 項 目	細 目	技 術 力 キ ー ワ ー ド 一 覧 表	[事 例] 具 体 的 な 評 価 技 術 力 項 目 及 び 工 事 事 例
4 高度技術	I 高度技術 キーワード'評価	●厳しい周辺環境等, 社会条件への対応 ☐ 地中埋設物等の地中内の作業障害物 ☐ 工事の影響に配慮すべき鉄道営業線, 供用中の道路, 架空線, 建築物等の近接物 ☐ 周辺住民等に対する騒音・振動の配慮 ☐ 周辺水域環境に対する水質汚濁の配慮 ☐ 生活道路を利用するの資材搬入等の工事用道路の制約, 路面覆工下, 高架下等の作業スペース制約 ☐ 現道上で, 特に交通規制及びその処理が伴う作業 ☐ 騒音・振動・水質汚濁以外の環境対策, 廃棄物処理等 ☐ その他(理由:)	[事例 : 周辺環境や社会条件の施工現場での対応が必要になった工事等] ・ 横断函渠工事や電線地中化工事等の現道開削工事で, ガス管, 水道管, 電話線等の移設が施工工程に大きく影響した工事。 ・ 鉄道営業線及び供用中道路を跨ぐ跨線橋又は跨道橋工事。 ・ 市街地等の家屋密集地での, 鉄道又は道路をアンダーパスする工事。 ・ 市街地での夜間工事。 ・ D I D 地区での工事。 ・ 供用中の道路(概ね日交通量1万台以上)で片側交互交通の交通規制をした工事。 ・ 供用中の道路での舗装及び修繕工事等。 ・ 支障物件の移設が工程上クリティカルパスになり, 工程の遅れを生じ, 回復に機械, 人員等の増強を行った工事。 ・ 工事期間中の大半にわたって, 規制標識類の設置, 撤去を日々行い, 交通開放を行った工事。 ・ 地元調整や環境対策の制約が特に多い工事。 ・ 工事の実施にあたり, 各種の制約があり, 工程的にも特に厳しく, 施工の制限を受けた工事。 ・ 工事に先立ち又は施工中で, 監視, 観測等の結果に基づき, 工法変更を行った工事。 ・ 環境対策が工程に大きな影響を与えた工事。 ・ 施工ヤードが狭く, 高さ制限もあり, 施工及び機械の移動や旋回等に制約を受けた工事。 ・ 大気圧を超える気圧下の作業室での工事。 ・ 酸欠, 有毒, 可燃性ガス等の対策が必要な工事, 又は地上, 水面から10m以上(10m以下)での工事。 ・ 工程上, 他工事の制約を受け, 機械, 人員の増強を行った工事。 ・ その他, 周辺環境又は社会条件への対応が必要であり, 特に評価すべき技術があると評価された工事。
		●その他 ☐ その他, 施工及び工法等の優れた技術力及び能力として, 評価する必要がある事項 (理由)	[その他] ・ その他, 施工及び工法等の優れた技術力及び能力として, 評価する技術。
	記述評価 (レマークを付したキーワード'項目について, 評価内容を詳細記述)	評点: _____ 点 ・ 高度な技術力は, 加点評価とする。 ・ 加点評価は+26点〜0点の範囲とする。 ・ 該当キーワード数の数と重みを勘案して評点する。 ・ 1項目4点を目安とするが, 内容によってはそれ以上又は以下の点数を与えてもよい。	[高度技術のキーワードの評価]

※ 高度な技術とは, 工事全体を通して他の類似工事に比べて, 特異な技術を要する工事を施工する技術力を評価するものである。なお, 評価は「5, 創意工夫」との二重評価はしない。
※ 詳細評価の記述に当たっては, 課内協議とし, 各考查項目はキーワードで大分類し, 評価する詳細な高度な技術力を記述する。
※ 高度技術は「実用新案・特許クラス」から「現場に適用した本当に些細な工夫ではあるが, 非常に役立つ軽微な工夫」まで, 様々なレベルがあるが, 本項目では「5, 創意工夫」で評価はしなかったものを対象とする。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表

【総括監督員】

考 査 項 目	細 別	a	a'	b	b'	c
6 社会性等	I 地域への 貢献等	優れている	b より優れている	やや優れている	c より優れている	他の評価に該当しない
		●評価対象項目 ☐ 周辺環境への配慮に積極的に取り組んだ。 ☐ 現場事務所や作業現場の環境を周辺地域との景観に合わせるなど、積極的に周辺地域との調和を図った。 ☐ 定期的に広報紙の配布や現場見学会等を実施して、積極的に地域とのコミュニケーションを図った。 ☐ 道路清掃などを積極的に実施し、地域に貢献した。 ☐ 地域が主催するイベントへ積極的に参加し、地域とのコミュニケーションを図った。 ☐ 災害時などにおいて、地域への支援又は行政などによる救援活動への積極的な協力を行った。 ☐ その他〔理由: 〕 ●判断基準 ※ 上記該当項目を総合的に判断して、a, a', b, b', c 評価を行う。				

工事成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【総括監督員】

考 査 項 目	法 令 遵 守 等 の 該 当 項 目 一 覧 表	
7 法令遵守等	☐ 該当項目なし	
	措 置 内 容	点 数
	☐ 1 指名停止3ヶ月以上	－20点
	☐ 2 指名停止2ヶ月以上3ヶ月未満	－15点
	☐ 3 指名停止1ヶ月以上2ヶ月未満	－13点
	☐ 4 指名停止2週間以上1ヶ月未満	－10点
	☐ 5 文書注意	－ 8点
	☐ 6 口頭注意	－ 5点
	☐ 7 工事関係者事故又は公衆災害が発生したが、当該事故に係る安全管理の措置の不適切な程度が軽微なため、口頭注意以上の処分が行われなかった場合	－ 3点
	☐ 8 その他(理由: _____)	－ 点
	① 本審査項目(7 法令遵守等)で評価する事例は、施工にあたって工事関係者が下記の適応事例で上表の措置があった場合に適用する。	
	② 「施工」とは、請負契約書の記載内容(工事名、工期、施工場所等)を履行することに限定する。	
	③ 「工事関係者」とは、当該工事現場に従事する現場代理人、監理技術者、主任技術者、品質証明員、請負会社の現場従事職員及び当該工事にあたって下請契約し、それを履行をするために従事する者に限定する。	
	④ 総合評価落札方式における技術提案が、受注者の責により履行されなかった場合は、8 その他の項目で減ずる措置を行う。 (不履行に対しては文書注意のうえ8点を減ずるものとし、文書注意等により履行された場合は5点～3点を目安に減ずるものとする。)	
	【上記で評価する場合の適応事例】	
	・ 1 入札前に提出した調査資料などにおいて、虚偽の事実が判明した。	
	・ 2 承諾なしに権利又は義務を第三者に譲渡又は承継した。	
	・ 3 使用人に関する労働条件に問題があり送検された。	
	・ 4 産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等の関係法令に違反する事実が判明した。	
	・ 5 当該工事関係者が贈収賄などにより逮捕又は公訴された。	
	・ 6 一括下請けや技術者の専任違反等の建設業法に違反する事実が判明した。	
	・ 7 入国管理法に違反する外国人の不法就労者が判明し、送検された。	
	・ 8 労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。	
	・ 9 監督又は検査の実施を、不当な圧力をかけるなどにより妨げた。	
	・ 10 下請代金を期日以内に支払っていない、不当に下請代金の額を減じているなど下請代金支払遅延等防止法第4条に規定する親事業者の遵守事項に違反する行為がある。	
	・ 11 過積載等の道路交通法違反により、逮捕又は送検された。	
	・ 12 受注企業の社員に「指定暴力団」又は「指定暴力団の傘下組織(団体)」に所属する構成員、準構成員、企業舎弟等の暴力団関係者がいることが判明した。	
	・ 13 下請に暴力団関係企業が入っていることが判明した。あるいは、「暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律」第9条に記されている砂利、砂、防音シート、軍手等の物品の納入、土木作業員やガードマンの受け入れ、土木作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。	
	・ 14 安全管理が不適切であったことから、死傷者を生じさせた工事関係者事故又は重大な損害を与えた公衆損害事故を起こした。	

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表

【検査職員】

考 査 項 目	細 別	a	a'	b	b'	c	d	e
3 出来形及び出来ばえ	全 般	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評価対象項目」の4項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評価対象項目」の3項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評価対象項目」の3項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評価対象項目」の2項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a～b'に該当しない。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、 検査職員が修正指示を行った。
I 出来形		●評価対象項目 ☐ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 ☐ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。 ☐ 写真管理基準の管理項目を満足している。 ☐ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督職員と協議の上で管理していることが確認できる。 ☐ その他「理由：_____」 ※ ばらつきの判断は別紙ー4参照 ① 出来形は、工事全般を通じて評価するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。						

別紙一5【1】(新)

1 工事名 _____ 工事
2 工期 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日～平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日
3 施工業者 _____

事業課
主任監督員
担当監督員

- ① 施工プロセスチェックリストは、共通仕様書、契約書等に基づき、施工に必要なプロセスが適切に施工されているかを監督職員等が確認する。
② チェック欄では、書類もしくは現場等で確認した日、及びその内容がOKであれば□に「レ」マークを記入し、OKでなければ、備考欄に改善通知、改善指示及びその是正状況等を記入する。
③ 用語の定義については、契約後、当初契約後、変更後：工期内に入る契約変更後とする。

[illegible]

「施工プロセス」のチェックリスト

別紙ー5【2】（新）

考 項 査 目	細 別	確 認 項 目	チ ェ ッ ク リ ス ト 一 覧 表	(チェックの目安)	チ ェ ッ ク 時 期 (指 示 事 項)							備 考 (改善通知, 改善指示及びその是正状況等)
					着 手 前	施 工 中					完 成 時	
1 施 工 体 制	II 配 置 技 術 者 ／ 現 場 代 理 人 ・ 監 理 技 術 者 ・ 主 任 技 術 者	○ 現 場 代 理 人	・現場代理人は、現場に常駐している。	(施工時 1回／月程度)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・現場代理人は、監督職員との連絡調整及び対応を 書面で行っている。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
		○ 専 門 技 術 者 の 配 置	・専門技術者を専任し、配置している。	(施工計画時, 施工時適宜)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
		○ 作 業 主 任 者 の 選 任	・作業主任者を選任し、配置している。	(施工計画時, 施工時適宜)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
		○ 監 理 技 術 者 (主任技術者) の 専 任 制	・資格者証の内容を確認した。	(着事前)	(☐)							
			・配置予定技術者、通知による監理技術者、施工体 制台帳に記載された監理技術者と監理技術者証に 記載された技術者及び本人が同一であった。	(着事前)	(☐)							
			・現場に常駐していた。	(施工時 1回／月程度)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・施工計画や工事に係る工程、技術的事項を把握し、 主体的に係わっていた。	(施工時 打合せ時)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・施工に先立ち、創意工夫又は提案をもって工事を 進めている。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
		○ 現 場 技 術 者	・監督職員との対応が適切である。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
		○ 下 請 負 者 の 把 握	・下請負者が京都市の工事指名競争参加資格者である 場合には、指名停止期間中でない。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
2 施 工 状 況	I 施 工 管 理	○ 設 計 図 書 の 照 査 等	・契約書第18条第1項第1号から第4号に係わる設 計図書の照査を行っている。	(着事前, 施工時適宜)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・現場との相違事実がある場合、その事実が確認で きる資料を書面により提出して確認を受けた。	(着事前, 施工時適宜)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
		○ 施 工 計 画 書	・施工（変更を含む）に先立ち、提出した。	(着事前, 変更時)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・記載内容と現場施工方法と一致している。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・記載内容（作業手順書等）と現場施工体制が一致 している。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・記載内容が、設計図書・現場条件等を反映してい る。	(着事前, 変更時)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
		○ 施工管理・ 工事材料管理・ 出来形、 品質管理 ・イメージアップ	・ 京都市建設局電子納品実施要領（案）に基づく協 議時期が適切である。	(着手時, 検査前)	(☐)						(☐)	
			・工事材料の資料の整理及び確認がされ、管理して いる。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・品質管理確保のための対策など施工に関する工夫 を書面で確認できる。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・日常の出来形、品質管理が書面にて確認できる。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・特記仕様書等に定められた事項や独自の取り組み 又、地域等より評価されるものがある。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
		○ 検 査 (確認を 含む) 及び立 会い等の調整	・監督員の立会いにあたって、あらかじめ立会願 いを提出している。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
			・段階確認の確認時期が、適切である。	(施工時適宜)		(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	(☐)	
		○ 工 事 の 着 手	・工事開始日後、30日以内に工事に着手した。	(着手時)	(☐)							

別紙一5【3】(新)

別紙一5【3】(新)

2 工 事 関 係 書 類

工事関係書類一覧表（目次）（新）

様式 番号	大きさ	様 式 名	決 定 者	発行者名	提出先	届 け 先	部数	発 行 期 限	発行根拠・備考
5 1	A－4	監督員通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに	契9条1項, 3項
5 2	A－4	監督員変更通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに	契9条1項
5 3	A－4	工事の中止通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに(請負者との協議不要)	契9条1, 2項 出條1, 2項
5 4	A－4	中止解除の通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに(請負者との協議不要)	契9条1, 2項 出條1, 2項
5 5	A－4	請負代金等の変更（協議開始日）通知書(2枚) (請負者の請求等に基づく様式1, 13に対応)	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	乙の意見を聴いた後に	契23条2項, 24条2項, 30条2項, 各条項
5 6	A－4	損害発生（調査結果）通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに	契29条2項
5 7	A－5	臨機の措置指示書（2枚）	・ ・ ・ ・	監督職員	請 負 者	現場代理人	1	現場にて	契26条3項
5 8	A－5	破壊確認指示書（2枚）（監督職員用）	・ ・ ・ ・	監督職員	請 負 者	現場代理人	1	現場にて	契17条2項
5 9	A－5	破壊検査指示書（2枚）（検査職員用）	・ ・ ・ ・	検査職員	請 負 者	現場代理人	1	現場にて	契31条5項
6 0	A－5	改造・補修工事指示書（2枚）（監督職員用） (段階確認と材料確認を併用)	・ ・ ・ ・	監督職員	請 負 者	現場代理人	1	現場にて	契17条1項
6 1	A－5	手直し工事指示書（3枚）（検査職員用）	・ ・ ・ ・	~~監督職員~~ 検査職員	請 負 者	現場代理人	1	その場にて	契31条6項, 仕25条5項
6 2	A－4	中間検査日通知書（2枚） (現場・工場等派遣と併用)（様式11－1に対応）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに	契27条2項
6 3	A－4	中間検査調書（1枚）（様式64の決定用）	・ ・ ・ ・	~~監督職員~~ 検査職員	・ ・ ・	~~監督職員~~ 現場代理人	1	完成検査後写し1部を様式71に添えて	事45条, 48条
6 4	A－4	中間検査結果通知書（1枚） (様式63の交付用)	・ ・ ・ ・	監督職員⇒検査職員 ⇒監督職員	請 負 者	現場代理人	1	速やかに	事45条, 48条 契37条3項
6 5	A－4	工場等派遣中間検査実施予定連絡票(1枚)	・ ・ ・ ・	監督職員	・ ・ ・	検査職員	1	速やかに	

様式 番号	大きさ	様 式 名	決 定 者	発行者名	提 出 先	届 け 先	部数	発 行 期 限	発行根拠・備考
6 6	A-4	工場等派遣中間検査復命書（2枚）	・・・	監督職員	所 属 長	検査職員	1	出張後監理検査課用1部を速やかに	
6 7	A-4	既済部分検査日通知書（2枚） （指定部分検査等と併用）（様式11-4に 対応）	所 属 長	市 長	請 負 者	現 場 代 理 人	1	速やかに	契37条3項, 38条1項 46条, 49条, 仕26条6項
6 8	A-4	既済部分検査調書（1枚） （様式69の決定用）	・・・	~~監督職員~~ ⇒検査職員	・・・	~~監督職員~~ ⇒現場代理人	1	完成検査後写し1部を様式 71に添えて	事45条, 48条
6 9	A-4	既済部分検査結果通知書（1枚） （様式68の交付用）	・・・	監督職員⇒検査職員 ⇒監督職員	請 負 者	現 場 代 理 人	1	速やかに	事45条, 48条 契37条3項
7 0	A-4	完成検査日通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現 場 代 理 人	1	速やかに	契31条2項, 仕25条3 項
7 1	A-4	完成検査調書（1枚） （様式72の決定用）	・・・	監督職員⇒検査職員 ⇒監督職員	・・・	~~監督職員~~ ⇒現場代理人	1	完成検査後写し1部を速や かに	事45条, 48条
7 2	A-4	完成検査結果通知書（1枚） （様式71の交付用）	・・・	監督職員⇒検査職員 ⇒監督職員	請 負 者	現 場 代 理 人	1	速やかに	事45条, 48条 契31条2項, 仕43条6 項
7 2 (別表)	A-4	項目別評定点表（1枚）	・・・	監督職員⇒検査職員 ⇒監督職員	請 負 者	現 場 代 理 人	1	様式72に添えて	
7 3	A-4	完成検査報告書	・・・	建設局長	行財政 局長	~~監督職員~~ ⇒現場代理人	1	完成検査後写し1部を速やか に	
7 4	A-4 横	中間・既済部分検査の成績採点表（1枚）	・・・	~~監督職員~~ ⇒検査職員	・・・	・・・	1	完成検査後写し1部を様式 に添えて	事45条, 48条
7 5	A-4 横	完成検査の成績採点表（1枚）	・・・	~~監督職員~~ ⇒検査職員	・・・	・・・	1	完成検査後写し1部を10 日以内に	事45条, 48条
7 6	A-4	総合評価方式履行指示書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現 場 代 理 人	1	口頭注意後で、履行されな い時	京都市建設局総合評価方 式ガイドライン

「発行根拠・備考」欄の（契）は、請負契約書の略であり、

「 同 」欄の（仕）は、共通仕様書の略（1-1-〇〇の内、1-1-を省略し、〇〇に条を付し記載している。）であり、

「 同 」欄の（事）は、契約事務規則の略である。

工事関係書類一覧表（目次）（旧）

新様式 番号	様 番 式 号	大きさ	様 式 名	決 定 者	発行者名	提 出 先	届 け 先	部数	発 行 期 限	発行根拠・備考
5 1	5 7－1	A－4	監督員通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに	契9条1項，3項
5 2	5 7－2	A－4	監督員変更通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに	契9条1項
5 3	5 9－1	A－4	工事の中止通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに（請負者との協議不要）	契9条1,2項，仕9条1,2項
5 4	5 9－2	A－4	中止解除の通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに（請負者との協議不要）	契9条1,2項，仕9条1,2項
5 5	6 1－1	A－4	請負代金等の変更（協議開始日）通知書（2枚） （請負者の請求等に基づく様式1－4，14－5， 23－3，28及び60－1,60－2に対応）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	乙の意見を聴いた後に	契23条2項，24条2項， 30条2項，各条項
5 6	6 6	A－4	損害発生（調査結果）通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに	契29条2項
5 7	6 7	A－5	臨機の措置指示書（2枚）	・・・ ・	監督職員	請 負 者	現場代理人	1	現場にて	契26条3項
5 8	6 8－1	A－5	破壊確認指示書（2枚）（監督職員用）	・・・ ・	監督職員	請 負 者	現場代理人	1	現場にて	契17条2項
5 9	6 8－2	A－5	破壊検査指示書（2枚）（検査職員用）	・・・ ・	検査職員	請 負 者	現場代理人	1	現場にて	契31条5項
6 0	6 8－3	A－5	改造・補修工事指示書（2枚）（監督職員用） （段階確認と材料確認を併用）	・・・ ・	監督職員	請 負 者	現場代理人	1	現場にて	契17条1項
6 1	6 8－4	A－5	手直し工事指示書（3枚）（検査職員用）	・・・ ・	~~検査職員~~ →監督職員	請 負 者	現場代理人	1	その場にて	契31条6項，仕25条5項
6 2	7 0－1	A－4	中間検査日通知書（2枚） （現場・工場等派遣と併用）（様式31－1に 対応）	所 属 長	市 長	請 負 者	現場代理人	1	速やかに	契27条2項
6 3	7 0－2	A－4	中間検査調書（1枚）（様式70－3の決定 用）	・・・ ・	~~監督職員~~ →検査職員	・・・	~~監督職員~~ →調書	1	完成検査後写し1部を様式73－2に添えて	事45条，48条
6 4	7 0－3	A－4	中間検査結果通知書（1枚） （様式70－2の交付用）	・・・ ・	監督職員→検査職員 →監督職員	請 負 者	現場代理人	1	速やかに	事45条，48条 契37条3項
6 5	7 1－1	A－4	工場等派遣中間検査実施予定連絡票（1枚）	・・・ ・	監督職員	・・・	検査職員	1	速やかに	

新 様 式 番 号	様 式 番 号	大 き さ	様 式 名	決 定 者	発 行 者 名	提 出 先	届 け 先	部 数	発 行 期 限	発 行 根 拠 ・ 備 考
6 6	7 1－2	A－4	工場等派遣中間検査復命書（2枚）	・ ・ ・ ・ ・	監 督 職 員	所 属 長	検 査 職 員	1	出張後監理検査課用1部を速やかに	
6 7	7 2－1	A－4	既済部分検査日通知書（2枚） （指定部分検査等と併用）（様式31－5に対応）	所 属 長	市 長	請 負 者	現 場 代 理 人	1	速やかに	契37条3項, 38条1項 46条, 49条, 仕26条6項
6 8	7 2－2	A－4	既済部分検査調書（1枚） （様式72－3の決定用）	・ ・ ・ ・ ・	監 督 職 員 → 検 査 職 員	・ ・ ・	監 督 職 員 → 調 度 課	1	完成検査後写し1部を様式 73－2に添えて	事45条, 48条
6 9	7 2－3	A－4	既済部分検査結果通知書（1枚） （様式72-2の交付用）	・ ・ ・ ・ ・	監 督 職 員 → 検 査 職 員 → 監 督 職 員	請 負 者	現 場 代 理 人	1	速やかに	事45条, 48条 契37条3項
7 0	7 3－1	A－4	完成検査日通知書（2枚）	所 属 長	市 長	請 負 者	現 場 代 理 人	1	速やかに	契31条2項, 仕25条3項
7 1	7 3－2	A－4	完成検査調書（1枚） （様式73－3の決定用）		監 督 職 員 → 検 査 職 員 → 監 督 職 員		監 督 職 員 → 調 度 課	1	完成検査後写し1部を速や かに	事45条, 48条
7 2	7 3－3	A－4	完成検査結果通知書（1枚） （様式73－2の交付用）	・ ・ ・ ・ ・	監 督 職 員 → 検 査 職 員 → 監 督 職 員	請 負 者	現 場 代 理 人	1	速やかに	事45条, 48条 契31条2項, 仕43条6項
7 3	7 4－1	A－4 横	中間・既済部分検査の成績採点表（1枚）	・ ・ ・ ・ ・	監 督 職 員 → 検 査 職 員	・ ・ ・	監 督 職 員 → 調 度 課	1	完成検査後写し1部を様式 73－2に添えて	事45条, 48条
7 4	7 4－2	A-4横	完成検査の成績採点表（1枚）	・ ・ ・ ・ ・	監 督 職 員 → 検 査 職 員	・ ・ ・	監 督 職 員 → 調 度 課	1	完成検査後写し1部を10日 以内に	事45条, 48条
			定めのない書類							仕3条なお書

「発行根拠・備考」欄の（契）は、請負契約書の略であり、

「 同 」欄の（仕）は、共通仕様書の略（1－1－〇〇の内、1－1－を省略し、〇〇に条を付し記載している。）であり、

「 同 」欄の（事）は、契約事務規則の略である。

項 目 別 評 定 点 表

（工事名）

（請負者名）

項 目	細 別	評 定 点	満 点
1. 施工体制	施工体制一般	3.3	3.3
	配置技術者	4.1	4.1
2. 施工状況	施工管理	13.0	13.0
	工程管理	8.1	8.1
	安全対策	8.8	8.8
	対外関係	3.7	3.7
3. 出来形及び出来ばえ	出来形	14.9	14.9
	品質	17.4	17.4
	出来ばえ	8.5	8.5
4. 工事特性（加点のみ）	施工条件等 への対応	7.3	7.3
5. 創意工夫（加点のみ）	創意工夫	5.7	5.7
6. 社会性等（加点のみ）	地域への貢献度	5.2	5.2
7. 法令遵守等（減点のみ）	—	0	—
評 定 点 合 計		100	／100点

細目別評定点採点表

(工事名)

(請負者名)

考查項目	細 別	()	①担当監督員	()	②主任監督員	()	③総括監督員	()	④検査職員	細目別評定点	満点
1. 施工体制	施工体制一般	1.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.6 =$ 1.8 点	1.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.3 =$ 1.5 点					3.3	3.3
	配置技術者	3.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.6 =$ 2.2 点	3.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.3 =$ 1.9 点					4.1	4.1
2. 施工状況	施工管理	4.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.6 =$ 2.4 点	4.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.3 =$ 2.1 点			5.0	$(\quad) \times 0.4 + 6.5 =$ 8.5 点	13.0	13.0
	工程管理	4.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.6 =$ 2.4 点	4.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.3 =$ 2.1 点	2.0	$(\quad) \times 0.2 + 3.2 =$ 3.6 点			8.1	8.1
	安全対策	5.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.6 =$ 2.6 点	5.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.3 =$ 2.3 点	3.0	$(\quad) \times 0.2 + 3.3 =$ 3.9 点			8.8	8.8
	対外関係	2.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.6 =$ 2.0 点	2.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.3 =$ 1.7 点					3.7	3.7
3. 出来形 及び 出来ばえ	出来形	4.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.5 =$ 2.3 点	4.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.3 =$ 2.1 点			10.0	$(\quad) \times 0.4 + 6.5 =$ 10.5 点	14.9	14.9
	品質	5.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.6 =$ 2.6 点	5.0	$(\quad) \times 0.2 + 1.3 =$ 2.3 点			15.0	$(\quad) \times 0.4 + 6.5 =$ 12.5 点	17.4	17.4
	出来ばえ							5.0	$(\quad) \times 0.4 + 6.5 =$ 8.5 点	8.5	8.5
4. 工事特性	施工条件等 への対応					20.0	$(\quad) \times 0.2 + 3.3 =$ 7.3 点			7.3	7.3
5. 創意工夫	創意工夫			14.0	$(\quad) \times 0.2 + 2.9 =$ 5.7 点					5.7	5.7
6. 社会性等	地域への貢献度					10.0	$(\quad) \times 0.2 + 3.2 =$ 5.2 点			5.2	5.2
7. 法令遵守等						0.0	$-(\quad) \times 1.0 =$ 0 点			0	—
		18.6		21.4		20.0		40.0	評定点合計	100	／100点

平成 年 月 日

完 成 検 査 報 告 書

行 財 政 局 長 様

建 設 局 長

工事請負契約書第31条第1項に基づき請負者から完成通知があった工事について完成検査を行った結果、下記のとおり完成したことを確認しましたので報告します。

記

年 度	平成 年度
工 事 名	
工 事 場 所	
請 負 者	
検 査 年 月 日	平成 年 月 日
検 査 結 果	
評 定 点	点

中間・既済部分検査の成績採点表

事業課(所、室)

工 事 名		請 負 者 名																													
工 事 場 所		工 期						平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日																							
考 査 項 目		(既済・中間) 平成 年 月 日						(既済・中間) 平成 年 月 日						(既済・中間) 平成 年 月 日						(既済・中間) 平成 年 月 日											
		検査職員 氏 名 (印)						検査職員 氏 名 (印)						検査職員 氏 名 (印)						検査職員 氏 名 (印)											
考 査 項 目	細 別	a	a'	b	b'	c	d	e	a	a'	b	b'	c	d	e	a	a'	b	b'	c	d	e	a	a'	b	b'	c	d	e		
1 施工体制	施 工 体 制 一 般																														
	配 置 技 術 者																														
2 施工状況	施 工 管 理	+5.0		+2.5		0	-7.5	-15	+5.0		+2.5		0	-7.5	-15	+5.0		+2.5		0	-7.5	-15	+5.0		+2.5		0	-7.5	-15		
	工 程 管 理																														
	安 全 対 策																														
	対 外 関 係																														
3 出来形及び 出来ばえ	出 来 形	+10	+7.5	+5.0	+2.5	0	-10	-20	+10	+7.5	+5.0	+2.5	0	-10	-20	+10	+7.5	+5.0	+2.5	0	-10	-20	+10	+7.5	+5.0	+2.5	0	-10	-20		
	品 質	+15	+12	+7.5	+4.0	0	-12.5	-25	+15	+12	+7.5	+4.0	0	-12.5	-25	+15	+12	+7.5	+4.0	0	-12.5	-25	+15	+12	+7.5	+4.0	0	-12.5	-25		
	出 来 ば え	+5.0		+2.5		0	-5.0		+5.0		+2.5		0	-5.0		+5.0		+2.5		0	-5.0		+5.0		+2.5		0	-5.0			
4 工事特性	施工条件等への対応																														
5 創意工夫	創 意 工 夫																														
6 社会性等	地 域 へ の 貢 献 等																														
加減点合計 (2 + 3)		± 点						± 点						± 点						± 点											
評定点 (65±加減点合計)		① 点						① 点						① 点						① 点											
評定点小計=①×0.2 ※1		点						点						点						点											
平均評定点 ※2	n Xn=ΣXj = j=1 n	第 回 (既済・中間) 検査						第 回 (既済・中間) 検査						第 回 (既済・中間) 検査						第 回 (既済・中間) 検査											
		点						点						点						点											
		監 理 検 査 課 長 確 認 印			担 当 課 長 確 認 印			監 理 検 査 課 長 確 認 印			担 当 課 長 確 認 印			監 理 検 査 課 長 確 認 印			担 当 課 長 確 認 印			監 理 検 査 課 長 確 認 印			担 当 課 長 確 認 印								
		(印)			(印)			(印)			(印)			(印)			(印)			(印)			(印)								

※1 評定点小計は評定点 (65±加減点合計) に0.2を乗じ、小数第二位を四捨五入し、小数第一位まで記入する。

※2 平均評定点は過去の評定点を含めた平均とし、小数第二位を四捨五入し、小数第一位まで記入する。

※3 各事業課 (所) の職員が検査職員の場合は「監理検査課長確認印」を「所属長確認印」に訂正し、担当課長のいない場合は「担当課長確認印」の欄を抹消すること。

完成検査の成績採点表

事業課(所、室)

工 事 名											請負者名											契約金額(最終)															
工 事 場 所											工 期 平成 年 月 日～平成 年 月 日											完成通知年月日 平成 年 月 日															
考 査 項 目											担 当 平成 年 月 日 監督員 氏名 (印)					主 任 平成 年 月 日 監督員 氏名 (印)					総 括 平成 年 月 日 監督員 氏 名 (印)					(既済・中間) 検査結果		検査職員 平成 年 月 日 氏 名 (印)									
考 査 項 目	細 別										a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	a'	b	b'	c	d	e	—	a	a'	b	b'	c	d	e		
1 施工体制	施 工 体 制 一 般										+1.0	+0.5	0	−5.0	−10	+1.0	+0.5	0	−5.0	−10								別									
	配 置 技 術 者										+3.0	+1.5	0	−5.0	−10	+3.0	+1.5	0	−5.0	−10																	
2 施工状況	施 工 管 理										+4.0	+2.0	0	−5.0	−10	+4.0	+2.0	0	−5.0	−10								紙	+5.0		+2.5		0	−7.5	−15		
	工 程 管 理										+4.0	+2.0	0	−5.0	−10	+4.0	+2.0	0	−5.0	−10	+2.0		+1.0		0	−7.5	−15										
	安 全 対 策										+5.0	+2.5	0	−5.0	−10	+5.0	+2.5	0	−5.0	−10	+3.0		+1.5		0	−7.5	−15	の									
	対 外 関 係										+2.0	+1.0	0	−2.5	−5.0	+2.0	+1.0	0	−2.5	−5.0																	
3 出来形及び出来ばえ	出 来 形										+4.0	+2.0	0	−2.5	−5.0	+4.0	+2.0	0	−2.5	−5.0								と	+10	+7.5	+5.0	+2.5	0	−10	−20		
	品 質										+5.0	+2.5	0	−2.5	−5.0	+5.0	+2.5	0	−2.5	−5.0									+15	+12	+7.5	+4.0	0	−12.5	−25		
	出 来 ば え																										お	+5.0		+2.5		0	−5.0				
4 工事特性	施工条件等への対応※2																																				
5 創意工夫	創 意 工 夫 ※3															+14	～	0									り										
6 社会性等	地 域 へ の 貢 献 等																																				
加減点合計(1+2+3+4+5+6)											± 点					± 点					± 点							± 点									
評 定 点 (65点±加減点合計)											① 点					② 点					③ 点					④ 点		⑤ 点									
評定点小計 ※1											①×0.2 点					②×0.2 点					③×0.2 点					(既済・中間) が2回以上の場合は平均値 点		既済・中間検査があった場合 : ⑤×0.2 既済・中間検査がなかった場合 : ⑤×0.4 点									
7 法令遵守等 ※7																																					
総合評価技術提案 ※7																					履行 不履行 対象外																
監 督 職 員 所 見 ※5											担 当 監 督 員					主 任 監 督 員					総 括 監 督 員					9 評 定 点 合 計 ※8 (評定点小計の和−7 法令遵守等) 点		監理検査 担当課長 課長確認 印 (印) 確 認 印 (印)									

※1 評定点小計は評定点（65点±加減点合計）に0.2～0.4を乗じ、小数第二位を四捨五入し、小数第一位まで記入する。

※2 工事特性は、当該工事特有の難度の高い条件（構造物の特殊性、特殊な技術、都市部等の作業環境・社会条件、厳しい自然・地盤条件、長期工事における安全確保等）に対して適切に対応したことを評価する項目である。評価に際しては、主任監督員からの報告を受けて総括監督員が評価ものとする。

※3 創意工夫は、工事特性のような難度を伴わない工事において、企業の工夫やノウハウにより特筆すべき便益があった場合に評価する項目である。

※4 4, 5, 6は加点評価のみとする。

※5 監督職員所見は必ず記載する。

※6 考查項目ごとの採点は、担当監督員、主任監督員は別紙-1【1】～別紙-1【14】の項目、総括監督員は別紙-2【1】～別紙-2【4】の項目、検査職員別紙-3【1】～別紙-3【34】の項目により採点を行う。検査職員による完成検査の評価に先立ち担当監督員、主任監督員、総括監督員が記入する。

※7 法令遵守等及び総合評価技術提案の評価は総括監督員が行い、減点評価のみとする。技術提案の履行が確認できない場合は、『不履行』を選択する。

※8 評定点合計は、小数第1位を四捨五入し、整数とする。

※9 各事業課（所）の職員が検査職員の場合は「監理検査課長確認印」を「所属長確認印」に訂正し、担当課長がいない場合は「担当課長確認印」の欄を抹消すること。

請 負 者
○ ○ ○ ○ 様

京都市長 ○ ○ ○ ○
〔事業課(所) 担当監督員〕

記

- 1 工 事 名 ()
 - 2 工 事 場 所 ()
 - 3 提 案 内 容

上記のとおり指示することを決定する。

決 定 者		担当課長	総括監督員	主任監督員	担当監督員
所属長	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)

工事関係提出書類の様式一覧

様式番号	様 式 名	作成者	宛 名	提出 部 数	提出先	提 出 時 期	提出根拠・備考
1	請負代金（変更）内訳書	請負者	市 長	1	監督職員	契約締結後及び変更 契約締結後速やかに	契 3 条
2	工事工程表	請負者	市 長	1	監督職員	契約締結後及び変更 契約締結後速やかに	契 3 条
3-1	工事履行報告書	請負者	市 長	1	監督職員	翌月 5 日までに	契 1 1 条
3-2	工事月報	請負者	市 長	1	監督職員	上半期分は 2 0 日迄 下半期分は翌月 5 日 までに	契 1 1 条
契約課 様 式	現場代理人等通知書・変更届	請負者	市 長	1	契約課	契約締結後及び変更 契約締結後速やかに	契 1 0 条 1 項
契約課 様 式	経 歴 書	本 人	市 長	1	契約課	契約締結後及び変更 契約締結後速やかに	契 1 0 条 1 項
契約課 様 式	下請負契約等の通知書・変更 通知	請負者	市 長	1	契約課	契約締結後及び変更 契約締結後速やかに	契 7 条
4	(削除)						
5	工期延長請求書	請負者	市 長	1	監督職員	速やかに	契 2 1 条

工事関係提出書類の様式一覧

様式番号	様 式 名	作成者	宛 名	提出 部 数	提出先	提 出 時 期	提出根拠・備考
6-1	支給品・貸与物品要求書	請負者	市 長	1	監督職員	使用予定日の14日 前までに	仕第1編16条4項
6-2	支給品・貸与物品受領書	請負者	市 長	1	監督職員	引渡しの日から7日 以内	契15条4項
6-3	返 還 書	請負者	市 長	1	監督職員	速やかに	契15条9項 契49条3項, 4項
6-4	支給品清算書	請負者	市 長	1	監督職員	速やかに	仕第1編16条3項
7	現場発生品調書	請負者	市 長	1	監督職員	発生品引渡しの時	仕第1編17条
8	損害発生通知書	請負者	市 長	1	監督職員	発生後速やかに	契29条1項
9	工事打合簿	現場代理人	担当監督員	1	監督職員	打合の都度	契9条4項
10-1	材料確認願	現場代理人	担当監督員	1	監督職員	確認を受けようとする時	契13条2項 契14条1項
10-2	段階確認書	現場代理人	担当監督員	1	監督職員	事前に	仕第3編5条6項
10-3	立 会 願	現場代理人	担当監督員	1	監督職員	事前に	仕第3編5条1項

工事関係提出書類の様式一覧

様式番号	様 式 名	作成者	宛 名	提出 部 数	提出先	提 出 時 期	提出根拠・備考
11-1	中間検査申請書	請負者	市 長	1	監督職員	検査前に	仕第3編9条1項
11-2	工場等派遣（製品・材料） 中間検査記録書	製作・生産者	請負者	1	監督職員	検査後速やかに	
11-3	工場等派遣（製品・材料） 中間検査報告書	請負者	市 長	1	監督職員	検査後速やかに	
11-4	既済部分検査請求書	請負者	市 長	2	監督職員	検査前に	契37条2項 契38条1項
12	完成通知書	請負者	市 長	1	監督職員	工事完成の日	契31条1項
13-1	請 求 書	請負者	市 長	2	監督職員	速やかに	契32条1項, 契34 条1項, 契37条1項
13-2	請 求 書（部分引渡し）	請負者	市 長	2	監督職員	速やかに	契38条1項
14	引 渡 書	請負者	市 長	1	監督職員	引渡しの時	契31条4項
15	事故発生報告書	請負者	市 長	1	監督職員	発生後直ちに	仕第1編29条
16	品質証明員通知書	請負者	担当監督員	1	監督職員	設計図書で明示され た場合	仕第3編7条5項

工事関係提出書類の様式一覧

様式番号	様 式 名	作成者	宛 名	提出 部 数	提出先	提 出 時 期	提出根拠・備考
12条様式	(建設副産物) 説明書	受注者	市 長	1	監督職員	契約前に（落札後速やかに）	建リ 1 2 条
13条様式	(建設副産物) 分別解体等の方法等	受注者		2	監督職員	契約前に監督職員に確認をとり、契約書に添付	建リ 1 3 条
11条様式	(建設副産物) 通知書	監督職員	市 長	1	都市計画局審査課	工事着手前に	建リ 1 1 条
18条様式	(建設副産物) 再資源化等報告書	受注者	市 長	1	監督職員	特定建設資材の再資源化等が完了後、速やかに	建リ 1 8 条

注 1 : 「提出根拠・備考」欄の（契）は、請負契約書の略である。

2 : 「同」欄の（仕）は、共通仕様書の略であり第〇編1-1-〇〇の内、1-1-を省略し〇〇に条を付して記載している。

3 : 「同」欄の（建）は、建設リサイクル法の略であり、同法対象工事が提出の対象となる。

削除

様式 4

平成 年 月 日

下 請 負 （ 委 任 ） 通 知 書

京都市長

様

(法人にあつては、事務所の所在地、名称及び代表者を記入)

請 負 者 住 所 ()
氏 名 (印)

平成 年 月 日付けで請負工事を締結した下記工事について、工事の一部を

下記のとおり 請負わせる
委任する から契約書第7条に基づき通知します。

記

1 工 事 名 ()

2 工 事 場 所 ()

3 下請負者等に付する部分の概要及び予定工事量

工 種 ()
種 別 ()
工 事 量 ()
工 期 (自 平成 年 月 日 ～ 至 平成 年 月 日)

4 下請負者等の住所等 (法人にあつては、事務所の所在地、名称及び代表者を記入)

住 所 ()
氏 名 ()
資 格 ()

5 現場担当責任者の氏名 ()

6 下請負者等に付する理由

平成 年 月 日

支 給 品 清 算 書

京都市長 様

(法人にあっては、事務所の所在地、名称及び代表者を記入)

請 負 者 住 所 ()

氏 名 ()

現場代理人 氏 名 (印)

1 工 事 名 ()

2 工 事 場 所 ()

下記のとおり支給品を共通仕様書(第1編)1－1－16条第3項に基づき清算します。

品 名	規 格	単 位	数 量			摘 要
			支給数量	使用数量	残数量	
上記の清算について調査したところ、事実と相違ないことを確認する。						
平成 年 月 日						
監督員 (印)						

押印欄削除⇒

総 括 監督員	印	主 任 監督員	印	担 当 監督員	印
------------	---	------------	---	------------	---

平成 年 月 日

品質証明員通知書

担当監督員 様

請負者住所 ()
氏名 (印)

共通仕様書（第3編）1-1-7条第5項に基づき、提出します。

1 工事名 ()

2 品質証明員氏名 ()
生年月日 (年 月 日)
資格 ()

経歴

工事名	職名	工期	従事期間
計			10年以上

注1 資格証の写しを添付する。
注2 経歴は、10年以上の現場経験が判断できる記載内容とする。

総括監督員	印	主任監督員	印	担当監督員	印
-------	---	-------	---	-------	---

1-1-6 数量の算出及び完成図

1. 請負者は、出来形数量を算出するために出来形測量を実施しなければならない。
2. 請負者は、出来形測量の結果を基に、土木工事数量算出要領（案）及び**設計図書**に従って、出来形数量を算出し、その結果を監督職員に**提出**しなければならない。出来形測量の結果が、**設計図書**の寸法に対し、土木工事施工管理基準及び規格値を満たしていれば、出来形数量は設計数量とする。なお、設計数量とは、**設計図書**に示された数量及びそれを基に算出された数量をいう。

1-1-7 品質証明

請負者は、**設計図書**で品質証明の対象工事と明示された場合には、次の各号によるものとする。

- (1) 品質証明に従事する者（以下「品質証明員」という。）が工事施工途中において必要と認める時期及び検査（完成、既済部分、中間技術検査をいう。以下同じ。）の事前に品質確認を行い、検査時にその結果を所定の様式により**提出**しなければならない。
- (2) 品質証明員は、当該工事に従事していない社内の者とする。また、原則として、品質証明員は検査に立会わなければならない。
- (3) 品質証明は、**契約図書**及び関係図書に基づき、出来形、品質及び写真管理はもとより、工事全般にわたり行うものとする。
- (4) 品質証明員の資格は10年以上の現場経験を有し、技術士若しくは1級土木施工管理技士の資格を有するものとする。ただし、監督職員の**承諾**を得た場合はこの限りでない。
- (5) 品質証明員を定めた場合、書面により氏名、資格（資格証書の写しを添付）、経験及び経歴書を監督職員に**提出**しなければならない。なお、品質証明員を変更した場合も同様とする。

1-1-8 工事完成図書の納品

1. 請負者は、工事完成図書として以下の書類を**提出**しなければならない。
 - ① 工事打合せ簿（出来形、品質管理資料を含む）
 - ② 施工計画書
 - ③ 完成図面
 - ④ 工事写真
 - ⑤ 工事履行報告書
 - ⑥ 段階確認書
2. 請負者は、電子納品にあたっては、「京都市電子納品実施指針（平成17年7月）」及び「京都市建設局電子納品要領（案）（平成19年11月）」に基づくものとする。

1-1-9 技術検査

1. 請負者は、**設計図書**に定められた工事の施工段階、工場製作段階において、現場中間検査又は工場等派遣中間検査を受ける場合は、中間検査申請書を監督職員に**提出**しなければならない。
2. 監督職員は、技術検査に先立って、請負者に対して検査日を**通知**するものとする。
3. 検査職員は、監督職員及び請負者の臨場のうえ、工事目的物を対象として**設計図書**